

# 1867年パリ万国博覧会以前のフランスにおける薩摩藩 に関する報道とオークションに出品された薩摩焼

Press reports on the Satsuma Domain in France before the 1867 Paris Exposition

Universelle and Satsuma ware at auction.

田邊しずか

Shizuka Tanabe

キーワード：satsuma, France, pottery, auction, journalism

## 1. 序論

薩摩焼とは、16世紀末に島津義弘（1535-1619）が朝鮮から伴ってきた陶工によって始められたやきものである。薩摩焼は、大きく白薩摩と黒薩摩に分けられ、加えて磁器といった多様な製品を有してきたが、特に白薩摩に色絵の具と金彩を施した薩摩錦手は、「SATSUMA」として欧米で人気を博した。

ヨーロッパにおける薩摩焼が語られるとき、通説ではその始まりは1867（慶応3）年に開催されたパリ万国博覧会となる。慶応元（1865）年に薩摩藩の留学生らを率いてヨーロッパに渡った新納久修（1832-1889）や五代友厚（1835-1885）とベルギー貴族モンブラン（Charles Descantons de Montblanc, 1833-1894）との間で貿易商社設立の協議をしているなかで、パリ万国博覧会への出品参加を勧められ、薩摩藩単独での出品が決まった。薩摩藩は当時藩内で生産されていたあらゆる工芸品や産物を幅広く出品し、中でも薩摩焼が高い評価を得た<sup>1</sup>。さらに、各地の万国博覧会において薩摩焼は評価され、ジャポニスムの高まりとともにヨーロッパやアメリカでの需要が高まったことは良く知られている。

薩摩焼についての研究は、考古学的な発掘調査による古い技法を明らかにするものや、主に薩摩藩や鹿児島県内の文献史料を用いてその流通の様相や技法を明らかにするものなど多くあるが、明治時代の欧米への輸出品という観点も重要視されてきた。

フランスを含む欧米に関するものでは、近年では松村真希子氏が「明治期サツマの様相—海外美術館収蔵品の調査から—」<sup>2</sup>において、海外美術館収蔵の1860年代以降の「サツマ」を調査し、装飾文様と技法から様式の変遷を明らかにしている。また、今給黎佳菜氏は「近代日本における欧米向け薩摩焼の輸出」<sup>3</sup>において、森村組<sup>4</sup>によってアメリカへ輸出された薩摩焼は、鹿児島島の沈寿官窯<sup>5</sup>で生産された白素地が横浜の保土田商店<sup>6</sup>に運ばれ、そこで絵付けされていたという経路を明らかにし、地域を越えた分業体制の流れを示した。加えて同論文では、近代の薩摩焼需要は美術コレクションからおみやげ品まで幅広く展開したこと、そして日本陶磁器の輸出製品主体が飲食器（磁器）などの日用品に移行

1 深港恭子「企画展『1867年パリ万博150周年記念 薩摩からパリへのおくりもの』に寄せて 1867年パリ万博における薩摩藩の出品物について」『黎明館調査研究報告』30, 鹿児島県歴史・美術センター黎明館, 2018.

2 松村真希子「明治期サツマの様相—海外美術館収蔵品の調査から—」『東洋陶磁』Vol.40, pp.117-138, 2011.

3 小森（今給黎）佳菜「近代日本における欧米向け薩摩焼の輸出」『交通史研究』79 (0), pp.13-31, 2012.

4 1876（明治9）年に森村市左衛門と弟豊によって設立された輸出商社。

5 鹿児島県日置市の窯元。

6 1893（明治26）年から横浜住吉町で陶器絵付、輸出業を営んでいた。

したことによって、装飾品である薩摩焼（陶器）の輸出が相対的に縮小した可能性が指摘されている。

1867年パリ万国博覧会の薩摩焼については深港恭子氏の研究に詳しい。「薩摩焼における錦手技法の成立と展開：万国博覧会における薩摩錦手好評の背景」<sup>7</sup>では、藩邸記録や藩の人事記録を担っていた記録書による調書から、錦手技法の創始は遅くとも18世紀初頭まで遡ることを述べ、1867年パリ万国博覧会と1873年ウィーン万国博覧会の出品作と製作者についての検討から、薩摩焼は1867年パリ万国博覧会で偶然に人気を博したわけではなく、すでに海外の嗜好を反映した製作が行われていたことで、「全国に先立った評価を得て、薩摩の大輸出時代を演出するに至ったと推測される」<sup>8</sup>と結論づけている。加えて同論文では、元治元（1864）年4月9日に孝明天皇（1831-1867）から元尾張藩主徳川慶勝（1824-1883）に下賜された錦手薩摩焼の花瓶<sup>9</sup>が、1873年ウィーン万国博覧会に出品された作品やその類似品に酷似していることから、1867年パリ万国博覧会に先立つ元治元（1864）年ごろには、すでに輸出向けのスタイルが考案されていたことが指摘されている。

さらに、深港氏は「1867年パリ万国博覧会における薩摩藩とその出品物について」において、1867年パリ万国博覧会の『総合カタログ』No.2<sup>10</sup>に掲載された薩摩藩の出品目録における薩摩焼について、薩摩錦手などの薩摩焼の製品が「SATSUMA」あるいは「sat-souma」の称号を既に得ていたことを指摘し、「『SATSUMA』の称号を得るほど、すでに知られていたとすれば、ヨーロッパなどへの薩摩焼輸出の時期はさらに遡ると考えられ、パリ万博がきっかけとなったという考えを見直す必要がある」<sup>11</sup>と述べている。このように、1867年パリ万国博覧会以前の薩摩焼については大いに研究の余地があると言える。フランス国立図書館が所蔵する1867年以前のフランスの刊行物においても、薩摩焼についての記載を確認できるが、特にオークションのカタログに多くみられる。

そこで本研究ではまず、1867年パリ万国博覧会期間までにフランスで刊行された新聞を史料として satsuma（以下、「サツマ」とする）という語を含む内容を抽出し、サツマという語に関連した報道にはどのようなものがあつたのかを明らかにする。次に、同時代に開催されていたオークションのカタログの内容を検討し、出品された薩摩焼の具体像を明らかにする。

史料の閲覧にはフランス国立図書館のデジタルアーカイブであるガリカ（Gallica）と、同図書館が所蔵する新聞をはじめとする定期刊行物を扱ったデジタルアーカイブであるレトロニュース（RetroNews）を主に利用する。<sup>12</sup>

7 深港恭子「薩摩焼における錦手技法の成立と展開：万国博覧会における薩摩錦手好評の背景」『黎明館調査研究報告』29、鹿児島県歴史・美術センター黎明館、pp.1-19、2017。

8 同論文、p.16。

9 徳川美術館所蔵。

10 *Exposition Universelle de 1867 a Paris : Catalogue General*, No.2, Publié par la Commission Impériale ; E, Dentu, libraire-editeur, 1867。

11 深港恭子、前掲論文（2018）、p.14。

12 ガリカ（<https://gallica.bnf.fr/accueil/fr/content/>）とレトロニュース（<https://www.retronews.fr>）に加えてデジタルアーカイブとしては、Googleが書籍の全文検索やPDFデータを提供するGoogleBooks（<https://books.google.co.jp/>）や、webサイトを含むさまざまなデジタル情報を保管するInternetArchive（<https://archive.org>）も利用して、史料や研究文献を閲覧した。

## 2. 1867 年パリ万国博覧会以前のフランスにおけるサツマという語を含む報道内容

表 1 は、レトロニュースを利用して satsuma という語を抽出した結果から、掲載年月日、掲載紙（誌）、ページ、見出し、サツマという語を含む内容の概要を整理した表である。抽出する期間は、初めの年月日は設定せず、終わりは 1867 年パリ万国博覧会開催期間（1867 年 4 月 1 日 -1867 年 11 月 3 日）<sup>13</sup> までとした。「薩摩」をアルファベットで表記する際の綴りは様々なものが見られるが、主に使われているのは satsuma である。ほかに、satsouma、satuma、satzuma も使われており、表 1 はこの 4 語の抽出結果を合わせたものになっている。

以下に、報道内容を年代順に述べる。

### 2-1. 19 世紀前半

レトロニュースで閲覧可能な文献においては、サツマという語の初出は 1833 年であり、19 世紀前半でサツマの語を含む文献は 4 件抽出された。サツマの語を含む記事は、日本に対するキリスト教布教に関するもの、日本の政治体制に関するもの、日本の開国を求めているものがあつた。

まず初出の 1833 年の『福音宣教誌』（*Journal des missions évangéliques*）は、パリのプロテスタントの団体である福音宣教協会（*Société des missions évangéliques*）が 1826 年に創刊し、宣教活動の報告を行っていた定期刊行物である。1833 年の『福音宣教誌』は「ギュツラフ氏」（Karl Friedrich August Gützlaff, 1803-1851）の「サツマ」やその周辺国への聖書配布の意思を掲載している。K・ギュツラフは、中国での伝道活動で活躍した人物で日本にも関心をもっていたが、琉球まで到達して漢訳聖書を配布したものの、日本本土に上陸することは実現しなかった<sup>14</sup>。1840 年の同誌は、日本人漂流民を日本に送り届けるため 1838 年 7 月 3 日にマカオを出航したモリソン号（*Morrison*）の航海を伝えているが、この船に K・ギュツラフも乗船していた。モリソン号は江戸の前の湾まで到達したところで砲撃を受けて引き返し、その後薩摩に向かって航海し、鹿児島湾（le baie de Kagosima）まで到達したものの、ここでもまた砲撃を受け撤退する様子が記されている。サツマという語に関して、ガリカでは 1608 年までさかのぼることができる<sup>15</sup> が、古くはこのような宣教活動の内容をはじめとする、キリスト教に関するものが多いようである。キリスト教が禁止され鎖国体制が強化された後も、日本から締めだされた宣教師たちは、その多くが琉球や薩摩から日本各地に入っている<sup>16</sup>。1608 年の刊行物の内容は、日本のキリスト教徒に対する弾圧に関するものであつた<sup>17</sup>。

次に 1833 年 2 月の、東洋に関する定期刊行物である『ジュルナル・アジアティック』（*Journal asiatique*）には、「日本の内裏あるいは天皇について」<sup>18</sup> と題して日本の政治体制

13 寺本敬子『パリ万国博覧会とジャポニズムの誕生』、思文閣出版、2017、p.7.

14 中村敏『日本キリスト教宣教史 ザビエル以前から今日まで』、いのちのことば社、2009、pp.108-110.

15 2024 年 12 月 26 日時点。

16 原口泉、永山修一、日隈正守、松尾千歳、皆村武一『鹿児島県の歴史』、山川出版社、1999、p.185.

17 *Histoire véritable de la glorieuse mort, que six nobles chrestiens japonois ont constamment enduré pour la foy de Jésus-Christ*（イエス・キリストの信仰のために、6 人の高貴な日本人キリスト教徒が堅く耐え忍び、栄光ある死を遂げた真実の物語）、1608. (<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k9680014h>).

18 *Journal asiatique*, février 1833, p.160 : < Sur les Dairis ou empereur du Japon, par M. Klaproth > .

の解説が掲載されている。著者はクラブロート氏 (M. Klaproth) とあり、パリ大学教授であった東洋学者のハインリヒ・ユリウス・クラブロート (Heinrich Julius Klaproth, 1783-1835) によるものと思われる。サツマについては、「ティチング氏によれば、薩摩の君主は帝国で最も尊敬され、かつ強大な領主の一人であり、その娘は太子または大納言様（現在の将軍）と婚約しているが、将軍にとって彼は単なる一人の家臣として見なされているに過ぎない」<sup>19</sup> と記されている。「ティチング氏」とは、東インド会社に入り長崎出島の商館長を務めたイサーク・ティチング (Isaac Titsingh, 1744-1812) であろう。ティチングの死後に刊行された『日本風俗図誌』(1822)<sup>20</sup> では、「サツマの君主」(prince of Satsouma) が有力な大名であることや、将軍家との婚姻についてしばしば触れている。

そして、1847年3月6日の『モニトゥール・ユニヴェルセル』<sup>21</sup> には、日本の開国を求める内容の記事が掲載されている。同記事ではイギリスやフランス、デンマークの船の日本周辺での動きとともに、琉球 (Liukio) 諸島は「今日では」ヨーロッパの船が頻繁に訪れていること、その琉球諸島は薩摩の総督 (gouverneur) の統治下に置かれていることが記されている。薩摩藩と琉球の関係については、17世紀末に日本に滞在したエンゲルベルト・ケンペル (Engelbert Kämpfer, 1651-1716) がすでに『日本誌』(*Histoire naturelle, civile et ecclésiastique de l'Empire du Japon*)<sup>22</sup> のなかで、琉球が「サツマの君主」の支配を受けていることを述べている。18世紀後半には、ディドロ (Denis Diderot, 1713-1784) とダランベール (Jean Le Rond D'Alembert, 1717-1783) による『百科全書』(1751-1780) で「琉球」(LIQUIOS, ou LIQUIOS, ou RIUKU) の項が設けられ、琉球が薩摩からの支配を受けていることに触れているが、「詳しく知りたい場合はケンペルと P. シャルルヴォワの日本の歴史を参照してください」<sup>23</sup> と最後に記している。このようにケンペルの『日本誌』に掲載された内容は、その後のフランスで日本に関する基本的な知識となっている。

## 2-2. 1850年代

1850年代には、サツマの語を含む文献は全部で4件抽出された。記事の内容は、長崎オランダ商館の医師として日本に滞在したシーボルト (Philipp Franz von Siebold, 1796-1866) が日本のさつまいも (patate douce) について記したもの、ペリー (Matthew Calbraith Perry, 1794-1858) が日本来航の際に薩摩藩の支配下にあった琉球を経由したことに關するもの、薩摩藩の産物である硫黄に関するものであった。「さつまいも」という言葉については、特定の品種を示さない場合は平仮名、個々の品種名と思われる場合は片仮名で表記する。

19 *Ibid.*, p.169 : < Le prince Satsouma, dit M. Titsingh, un des seigneurs le plus respectés et puissants de l'empire, et dont la fille est fiancée au Taïsi ou au Daynagon sama (le Seogoun d'à présent), n'est considéré par eux que comme un de leurs serviteurs > .

20 Isaac Titsingh, *Illustrations of Japan*, London: Printed for R. Ackermann, 1822.

21 *Le Moniteur universel* (1789-1901) : フランス政府の公式機関紙としての役割が強い新聞。

22 筆者はフランス語に訳された1729年の版をガリカで閲覧した。(https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k65811342, 2025年1月2日閲覧)

23 *Encyclopédie, ou Dictionnaire raisonné des sciences, des arts et des métiers*, Tome 9, p.396 : < Voyez les détails dans Kämpfer, & le P. Charlevoix, Hist. du Japon > .

「P. シャルルヴォワ」は『日本の歴史と一般的な説明』(*Histoire et description générale du Japon*, 1736) を著したピエール・フランソワ・グザビエ・ド・シャルルヴォワ (Pierre-François-Xavier de Charlevoix, 1682-1761) であろう。

まずさつまいもについて、1856年5月の『モニトゥール・ユニヴェルセル』と『モニトゥール・アルジェリアン』<sup>24</sup>の両紙は、同じ文章を掲載している。内容は、シーボルトが「北ヨーロッパの寒い気候ではジャガイモ栽培よりも注意を払う必要があるが、食用として手間をかける価値が十分にある」<sup>25</sup>と発表したというものである。当時は他新聞の記事をそのまま掲載することも多かった。記事では、シーボルトが1855年6月に日本から直接手に入れたさつまいもとして、「サツマイモ (Satsuma-imo)」または薩摩地方の芋、「アカイモ (aka-imo)」または赤い皮の芋、「シロイモ (Siro-imo)」または白い皮の芋、「ハナボケイモ (hanaboke imo)」またはマルメロの花の色の芋が、ライデン (Leiden) に存在する品種であるという。記されている「サツマイモ」とは、薩摩から日本に広まっていた品種をサツマイモと呼んでいたのであろうか、特定の品種名は不明である。

日本においてさつまいもは蘭学者の青木昆陽 (1698-1769) が救荒作物として普及させており、同記事でも「さつまいもが日本と中国で完全にジャガイモに代わって大規模に栽培されている」<sup>26</sup>と紹介し、「日本に数年間滞在した際、シーボルト氏は毎日それを食べていたが、決して飽きることはなかった」<sup>27</sup>と述べている。シーボルトは1859年に再来日する前の期間に、ライデンやボン (Bonn) で *Nippon* (ニッポン)<sup>28</sup> など日本関係の著書を執筆している。1853年時点で現在のボン大学構内の公園一角に植物園を設けてさつまいもを栽培していたことも知られており、食用としてプロシア王国政府に推薦している<sup>29</sup>。食用として推薦するために日本におけるさつまいもを誇張して書いた可能性はあるものの、シーボルトが日本に滞在した1823 (文政6) 年から1829 (文政12) 年当時にさつまいもが広まっていたことが窺える。

次に、1856年6月28日の『モニトゥール・ユニヴェルセル』には、ペリーの日本来航に関する記事が掲載されていた。同記事はペリーの艦隊に記録係として随行したベイヤー・テイラー (Bayard Taylor, 1825-1878) による報告で構成されている。ペリー一行が琉球 (Loo-Choo) に上陸する様子が事細かに記されているが、琉球が日本の薩摩藩主に従属していることにも触れている。

そして、1857年9月16日の『プレス』<sup>30</sup>には薩摩藩の産物であった硫黄に関する記事が掲載されていた。執筆者は日本学者のレオン・ド・ロニー (Léon de Rosny, 1837-1914) であり、「農業、工業、商業の視点から見た日本の開国」と題した記事である。同記事には日本の様々な産物の説明があるなかで、日本は硫黄が豊富であり、硫黄は薩摩の地で多く産出されることにも触れている。

24 *Moniteur algérien* (1832-1857) : フランス植民地であったアルジェリアの公式新聞。

25 *Le Moniteur universel*, 12 mai 1856, p.2 : « Dans les climats froids du nord de l'Europe, la culture de la patate demande plus de soins que celle de la pomme de terre ; néanmoins, M. de Siebold pense qu'elle vaut bien la peine qu'on lui donne quelques soins pour la faire venir dans les jardins » .

26 *Ibid.*, p.2 : « Ainsi M. de Siebold l'a trouvée cultivée en grand dans le Japon et en Chine, où elle remplace entièrement la pomme de terre » .

27 *Ibid.*, : « Pendant un séjour de plusieurs années qu'il a fait au Japon, il en mangeait tous les jours, suivant l'usage du pays, sans jamais s'en fatiguer » .

28 *Nippon. Archiv zur Beschreibung von Japan*.

29 石山禎一、宮崎克則「シーボルトの生涯とその業績関係年表Ⅱ (1833-1855年)」西南学院大学国際文化論集 第26巻 第2号, 2012, p.397.

30 *La Presse* (1836-1929) : エミール・ド・ジラルダンが1836年に創刊した大衆紙。

### 2-3. 1860年代

1860年代には、サツマに関する話題が大きく増えた。アヘン戦争（1840-1842）以降から関心が高まっていた日本（Japon）という語の出現数<sup>31</sup>と比べて、最もサツマの語が多くみられた1863年（91件）においても4パーセントほど<sup>32</sup>ではあるものの、特に生麦事件から薩摩藩の動向が注目されていたことは確かである。また、抽出された数は少ないものの、島津斉彬（1809-1858）が興した集成館事業と思われる「大きな鋳物工場とガラス製造工房」や電信機が報道されている<sup>33</sup>ことや、「薩摩の君主」は精密科学において卓越した学識を持っており、オランダ海軍の士官に写真技術と気圧観測に関して訊ねたという逸話を掲載している<sup>34</sup>ことから、薩摩藩の技術についてフランスから関心が寄せられていたことが窺える。1858（安政5）年に薩摩藩を訪れたオランダ人たち<sup>35</sup>によってヨーロッパで集成館事業についての情報が伝わったのであろうか。そして、本調査における薩摩焼の初出は1864年12月6日の『モニトゥール・デ・ザール』<sup>36</sup>である。加えて1867年4月19日と1867年5月21日の同紙をみることで、オークションで薩摩焼が出品されていること、また既に個人が薩摩焼を収集していたことが確認できた。1867年パリ万国博覧会については、初出は1866年10月5日の『ラ・パトリ』<sup>37</sup>であり、万国博覧会に出品される製品が日本の「首都」に到着し始めていることに加えて、豊かな「薩摩の君主」が「ヒオゴ」（Hiogo）という見事な蒸気船を4年間にわたる世界一周航海のために強化しているという。万国博覧会に関する報道はそれほど多くはなく、ほかには使節団がフランスに到着したことの報道<sup>38</sup>や、薩摩藩が「琉球公国」として出品したことを知った幕府の抗議を受けて1867年4月21日に行われた協議についての報道<sup>39</sup>、幕府が製作させた「武者人形飾馬」<sup>40</sup>が薩摩藩の展示として紹介されている報道<sup>41</sup>があった。

1860年代の最初の記事は、1862年1月18日『ジュルナル・デ・デバ』<sup>42</sup>に掲載されたもので、1857年9月16日の『プレス』と同様に、まだあまり知られていない日本について紹介するようなものであった。1854（安政元）年に日米和親条約を結んだ以後、欧米各国が日本と通商条約を結んだことによって日本への期待感も高まっていたであろう。サツマについては、薩摩藩が「帝国最大の封建領主」<sup>43</sup>であることに触れている。

またこの記事には1850年代までと異なる点がある。それは情報源が特派員（correspondant）によるものだという点である。電信技術の発達により情報の伝達速度はより速くなり、さらに1850年代までにフランスのアバス（Havas）、ドイツのウォルフ（Wolffs）、

31 宮崎克己『ジャボニスム 流行としての「日本」』、講談社、2018、pp.33-41。

32 レトロニュースで抽出できる Japon という語が含まれる1863年の文献は2206件（2025年1月7日）。

33 *Journal des débats politiques et littéraires*, 20 avril 1862, p.5.

34 *La Patrie*, 20 avril 1862, p.2.

35 芳即正『薩摩人とヨーロッパ』、著作社、1985、pp.126-138。

36 *Moniteur des arts* (1858-1890)：芸術を専門的に扱った週刊誌。

37 *La Patrie* (1841-1937)：政治、商業、文芸の日報。

38 *Journal des débats politiques et littéraires*, 30 mars 1867, p.2.

39 *La Liberté*, 26 avril 1867, p.2.

40 寺本敬子、前掲書、p.79。

41 *L'Avenir national*, 1 juin 1867, p.3.

42 *Journal des débats* (1789-1944)：国民議会の討論を報道するために創刊された日報。

43 *Ibid.*, 18 janvier 1862, p.3 : < le plus grand prince feudataire de l'empire > .

イギリスのロイター（Reuters）といった電信技術を活用して各地のニュースを収集する通信社が誕生し、新聞の紙面は電信ニュースの割合が増えていく。日本と大陸を結ぶ電信の海底ケーブルが開通するのは1871年6月（長崎-ウラジオストク間）<sup>44</sup>であるが、抽出した1860年代の記事では、日本国内の最新のニュースがおおよそ2ヶ月遅れてフランスの新聞に掲載される、という形式が多く見られる。たとえば、1863年10月19日の『ル・ファル・ド・ラ・ロワール』<sup>45</sup>には薩英戦争の「最新ニュース」として、「イギリス艦隊はKangokiniaと薩摩の君主の蒸気船3隻を破壊した」<sup>46</sup>としているが、イギリス側が薩摩の蒸気船3隻を焼却し、鹿児島に砲撃を加えたのが1863年8月15日（文久3年7月2日）である。Kangokiniaは鹿児島ということであろう。

以下は、1860年代の報道に多くみられた生麦事件から薩英戦争までの動向、日本国内の混乱や外国への対応について述べる。

1863年から1864年にかけて非常に多くみられたのは、生麦事件から薩英戦争後の交渉までの薩摩藩とイギリス、そして幕府の動向に関する報道である。生麦事件の初出は、1862年11月28日の『ラ・ファル・ド・ラ・ロワール』である。イギリスの新聞の内容が記されていることや、ロンドンからの通信として記事が掲載されるほか、1863年11月4日の『ル・コンスティテュシヨネル』<sup>47</sup>では第1面で始めに取り上げられるなど、フランスでも薩英戦争が大いに注目されていることが分かる。薩英戦争が始まった当初の報道ではイギリスの攻撃に対して「精力的な報復」（vigoureuses représailles）<sup>48</sup>とも表現しているが、詳しい内容が報道されるようになると、薩摩藩を「鎮圧させるには至っていない」<sup>49</sup>というように記したり、日本への対応を慎重にするべきとの提言がされたり<sup>50</sup>、イギリスを退けた薩摩藩、さらには日本の武力を軽視してはならないという報道になっていった。

また、1860年代は日本国内の混乱や外国への対応についても注目されていた。多くは大名と幕府の対立関係を基本として、「日本のなかでも有力な薩摩の君主」の政治的な動きが断片的ではあるものの報道されている。外国に対して比較的好意的な姿勢を見せる大君（Taï-koun、将軍）<sup>51</sup>に対して、「外国人に敵意を持つことで知られる」<sup>52</sup>や「兵庫の港の開港を拒否する」<sup>53</sup>というように、「薩摩の君主」は攘夷の考えを強く持つ人物として、外国への対応が注目されていた。しかしながら、幕府と対立する有力な藩主という構図の報道が多いなか、「薩摩の君主」はあくまで将軍に従っており、極端な見方をしないように促す慎重な記事もみられた<sup>54</sup>。

44 星名定雄『情報と通信の文化史』、法政大学出版局、2006、p.406。

45 *Le Phare de la Loire* (1844-1944)：ナントで創刊された地方日刊紙。

46 *Ibid.*, 19 octobre 1863, p.1 : < La flotte anglaise a détruit Kangokinia et trois vapeurs du prince Satsouma. > .

47 *Le Constitutionnel* (1815-1914)：政治に関する日刊紙。

48 *La Gazette de France*, 20 octobre 1863, p.1.

49 *Journal des débats politiques et littéraires*, 1 novembre 1863, p.2 : < mais cette perte ne suffira pas pour le soumettre > .

50 *Le Phare de la Loire*, 23 octobre 1863, p.2.

51 たとえば *Le Temps*, 3 avril 1864, p.2.

52 たとえば *Le Temps*, 20 octobre 1863, p.1.

53 たとえば *Mémorial de la Loire et de la Haute-Loire*, 12 mai 1866.

54 *Le Temps*, 8 janvier 1864, p.2.

### 3. オークションのカタログにおける薩摩焼

以上の調査のなかで、万国博覧会以前の薩摩焼がオークションに出品されていたことが示されたことから、同時代のオークションのカタログを史料として出品された薩摩焼の具体像を明らかにしたい。表2はガリカで閲覧可能なオークションのカタログのうち、1867年パリ万国博覧会以前の薩摩焼の出品内容を整理した表である。

表の結果は、サツマとポタリー（poterie, 陶器）という単語について、近接性による検索（PAR PROXIMITÉ）で30単語以内に両単語が出現する書誌を抽出したことによる。単語は、レトロニュースの調査と同様に、サツマについて同様に綴りを変えて抽出を行った。加えてポタリーを、施釉陶器を示すファイアンス（faïence）や、磁器を示すポルスレーヌ（porcelaine）にも替えて抽出を行った。

オークションの開催場所は共通してオテル・ドルーオ（Hôtel Drouot）であった。オテル・ドルーオは、パリの9区のドルーオ通りで1852年春に開業したオークションハウス（競売場、place de ventes aux enchères）である。

抽出の結果から、1864年に既に薩摩焼がフランスに渡っていたことが示された。1864年11月29日のオークションでは「薩摩焼」（Poteries de Satsuma）というカテゴリーが独立して設けられ、4点の作品が分類されている。このことから、薩摩焼がフランスで知られるようになってから時間が経っていたことが考えられる。

また、1867年4月23日の「ピコ・ド・L…氏のコレクション」は、「薩摩の磁器と陶器」というカテゴリーが設けられ、出品番号47～70まで24の作品が分類されていた。しかしながら、出品番号63は「カンガの磁器」（porcelaine de Kanga）であり、カンガは加賀と思われるため省略している。このように、薩摩焼ではないものと一緒に分類されている可能性があるものの、個人のコレクションとして薩摩焼を非常に多く収集していることは注目すべき点である。

本調査で確認できた限りでは、1867年パリ万国博覧会までのオークションに出品された薩摩焼は43点であり、ボウルや壺、ティーポット（急須）、置物、小物入れなど、多様であった。1866年と1867年にみられたティーポット（急須）は、単語としてはthéière（ティエール）であり、中国や日本の急須の形であるか、西洋風のティーポットの形であるか、形が分かる詳しい文章や図像がみられないためティーポット（急須）のように併記している。万国博覧会を経て欧米に多く輸出された、白薩摩に色絵の具と金彩を施した錦手のもの、たとえば1867年2月6日の出品番号76がそのような技法の薩摩焼とみられる。しかしながら、全体をみると説明が短く技法が明らかなものばかりではない。文様は、松村氏が1860年代の「サツマの技法」を明らかにした<sup>55</sup>ように、最小量の帯文様や、赤絵の具に金彩の輪郭線という特徴もみられたものの、本調査で抽出された薩摩焼には花や人物、龍、孔雀、山岳風景など、多様な文様がみられた。

最後に、人物像や像がついた製品について考察したい。まず、1864年11月29日の出品番号99は、高さ23cmの「岩の上に座る人物」である。岩の上に座る人物というのは、観音座像の例があるが、記された特徴は「わざとらしくない装飾」とあるのみで、それ以上に詳しい造形は不明である。次に、1866年2月16日の出品番号55は、「マンドリンを

55 松村真希子, 前掲論文, p.122.

演奏する座った女性のきれいな小像」である。説明文をそのまま訳した「マンドリン」という言葉では西洋の楽器を表してしまうが、この像はマンドリンと似た楽器である琵琶を持って描かれることが多い弁財天であると考え。カタログのタイトルに「中国と日本の古い陶磁器」とあるため同時代の作品ではない可能性があるが、明治時代の薩摩焼の置物に、大黒天や寿老人といった七福神<sup>56</sup>もみられているためである。そして、1867年2月6日の出品番号86は、「荷物を背負ってしゃがんだ人物で構成された小物入れ」であるが、おそらく世俗的な人物像を表現したものと思われる<sup>57</sup>が詳しい造形は不明である。ほかに、1867年4月23日の出品番号66から70は鳥や僧侶をモチーフにした置物と思われるが、技法については「釉薬」の記載があるのみであった。

#### 4. 結論

19世紀前半までに、日本に滞在した外国人による日本に関する書誌のなかで、琉球に対する支配や日本の有力大名が治める領地としての強いサツマ像が既にあった。開国を経て日本の情報が多く欧米に渡るようになったことや、電信技術の発達によって、特に1860年代には生麦事件から薩英戦争後の交渉までの報道、日本国内の政治体制の混乱や外国への対応に関する報道が多く、おおよそ2ヶ月遅れて報道されるようになっていた。薩摩藩は単なる有力大名の領地というだけではなく、報道の中で欧米に倣った軍事力や集成館事業にみられる技術力、また藩主の精密科学への関心に至るまで、断片的ではあるものの詳細に報道されていたことが分かった。

1867年パリ万国博覧会以前に、既にフランスの人々は多様な薩摩焼を収集していた。フランスの人々が薩摩焼を手にとるとき、定期刊行物で繰り返し語られてきた強いサツマ像も想像されたのではないだろうか。

1864年11月29日のオークションで薩摩焼が独立したカテゴリーとして複数の作品を含んで扱われていたことは、この時点で薩摩焼がフランスで知られるようになってから時間が経っていたことが考えられる。

薩摩焼はオークションに限らず、中国や日本の物品を扱っていた店<sup>58</sup>や、百貨店などでも扱われていた可能性もある。本研究ではオークションを中心に、どのような薩摩焼が出品されていたかを明らかにしたことにとどまったが、オークション以外にも1867年パリ万国博覧会以前に薩摩焼がどのような場所で扱われていたのか、またどのような経路をたどってフランスへと渡ったのか、日本側の史料を含めて検討することを今後の課題としたい。

#### 謝辞

本稿は令和5年度鹿児島県立短期大学地域研究所種村寄付金の助成をいただいた「近代西洋服飾における薩摩鉤の研究」の一部である。

56 七福神をモチーフにした置物として、鹿児島県歴史・美術センター黎明館が所蔵する「錦手大黒天像」（明治時代中期）や「錦手寿老人像」（明治時代）がある。

57 世俗的な人物の姿をモチーフにした置物として、鹿児島県歴史・美術センター黎明館が所蔵する「錦手大原女像」（明治時代中期）、沈家伝世品収蔵庫（沈寿官窯）が所蔵する「錦手猿使い置物」（明治時代）、大阪歴史博物館が所蔵する「錦手砵打置物」（明治時代）などがある。

58 国立西洋美術館学芸課（編）『ジャポニスム展図録』, 1988, p.50.

表1 1867年パリ万国博覧会期間までのサツマに関する報道内容

年	月	日	掲載紙(誌)	ページ	見出し	サツマに関する内容の概要
1833	-	-	<i>Journal des missions évangéliques</i>	p.181	中国、宣教師ギュツラフ氏の第2回目と第3回目の旅	中国での宣教活動の報告と、「サツマ」や琉球、コーチナなどへの配布する聖書が1万部必要になること
1833	2	-	<i>Journal asiatique</i>	p.169	日本の内裏あるいは天皇について	「ティチング氏によれば、薩摩の君主は帝国で最も尊敬され、かつ強大な領主の一人であり、その娘は太子または大納言様(現在の将軍)と婚約しているが、将軍にとって彼は単なる一人の家臣として見なされているに過ぎない」
1840	-	-	<i>Journal des missions évangéliques</i>	p.277, 278, 280	雑録、日本への旅: 旅の目的、旅人たちの危険、そして彼らの退却	日本人漂流民を日本に送り届けるため江戸に近付いたが砲撃され、その後薩摩に向かったが再度砲撃を受け撤退した、宣教師が同行した
1847	3	6	<i>le Moniteur universel</i>	p.2	雑多な事実、外国	日本の開国を求める内容、イギリス、フランス、デンマークの船の日本周辺の動き、薩摩の総督(gouverneur)の統治下に置かれている琉球(Liukio)諸島はヨーロッパの船が頻繁に訪れている
1856	5	12	<i>Le Moniteur universel</i>	p.2	雑多な事実	日本のさつまいも(patate douce)について、シーボルトが1855年6月に日本から直接手に入れた日本産のさつまいもとして、「『サツマイモ(Satsuma-imo)』または薩摩地方の芋」がある
1856	5	25	<i>Moniteur algérien</i>	p.2	-	日本のさつまいも(patate douce)について、シーボルトが1855年6月に日本から直接手に入れた日本産のさつまいもとして、「『サツマイモ(Satsuma-imo)』または薩摩地方の芋」がある
1856	6	28	<i>Le Moniteur universel</i>	p.3	外国のニュース、外国の新聞からの抜粋、インド、中国、日本	ペリーの艦隊に記録係として随行したペイヤード・テイラーによる「インド、中国、そして日本への旅」、琉球(Loo-Choo)を経由した際の報告のなかで、琉球が日本の薩摩藩主に従属していることを示す
1857	9	16	<i>La Presse</i>	p.2	農業、工業、商業の視点から見た日本の開国	薩摩では、非常に大量の硫黄が採取されている
1862	1	18	<i>Journal des débats politiques et littéraires</i>	p.3	雑多な事実	日本の地理や周辺の航路の説明のなかで「薩摩藩が支配する地の対岸で、30,000人の軍勢を一声で旗の下に集めることができる帝国最大の封建大名が治める領地に面して、私たちは日本でヨーロッパ人が初めて上陸した島、種子島をかなり近くに見ることができた」
1862	3	28	<i>L'Aube</i>	p.2	私的な電信	薩摩の君主の宮殿が焼失した
1862	3	28	<i>Mémorial de la Loire et de la Haute-Loire</i>	p.1	至急報	薩摩の君主の宮殿が焼失した
1862	3	28	<i>La Gazette de France</i>	p.1	至急報	薩摩の君主の宮殿が焼失した
1862	3	28	<i>Le Phare de la Loire</i>	p.2	-	薩摩の君主の宮殿が焼失した
1862	3	28	<i>Le Constitutionnel</i>	p.1	私的な電信	薩摩の君主の宮殿が焼失した
1862	3	29	<i>Le Temps</i>	p.1	私的な電信	薩摩の君主の宮殿が焼失した
1862	4	20	<i>Journal des débats politiques et littéraires</i>	p.5	雑録、いくつかの新しい作品と時代の兆し	薩摩という貴族の領地には既に電信機があり、大きな鋳物工場とガラス製造工房がある
1862	4	20	<i>La Patrie</i>	p.2	日本人	日本人について、自然科学や言語、歴史への関心の高さや、その性格について記しているなかで、「薩摩の君主は帝国で最も有力な家臣の一人で、精密科学において卓越した学識を持っている」
1862	11	28	<i>Le Phare de la Loire</i>	p.1	外国のニュース、中国と日本	生麦事件
1863	5	19	<i>Gazette nationale ou le Moniteur universel</i>	p.2	様々な出来事	長崎から輸出される硫黄は薩摩国の南端に位置するivogasimaからのもの、これらの鉱山の開発は、薩摩国に設置されたガラス工場や大砲の鑄造工場とともに、天皇の親戚の一人である薩摩の君主の主な収入になっている
1863	6	12	<i>Gazette nationale ou le Moniteur universel</i>	p.2	外国のニュース	生麦事件後の対応に関するもの、イギリスに対する神奈川の長の言葉として記載、「大君の政府は島津三郎(久光)を逮捕し処罰するほど強力でない」「薩摩藩主に責任を取らせるために、彼の所有であり年間100万ポンドの収入をもたらす琉球諸島を占領する提案をしている」
1863	6	15	<i>Mémorial de la Loire et de la Haute-Loire</i>	p.2	朝の通信	生麦事件の賠償金請求
1863	6	16	<i>L'Aube</i>	p.2	日本のニュース	生麦事件からの賠償請求
1863	6	19	<i>Journal des débats politiques et littéraires</i>	p.3	外国のニュース	生麦事件の賠償に関するイギリス議会の討論
1863	7	18	<i>Gazette nationale ou le Moniteur universel</i>	p.1	外国のニュース	生麦事件後、イギリスの支援があれば大君は薩摩の君主に対して躊躇せず攻撃を仕掛けるだろうと考えられていた
1863	7	18	<i>Journal des débats politiques et littéraires</i>	p.2	外国のニュース	生麦事件後、イギリスの支援があれば大君は薩摩の君主に対して躊躇せず攻撃を仕掛けるだろうと考えられていた
1863	7	22	<i>Journal des débats politiques et littéraires</i>	p.2	外国のニュース	イギリスで生麦事件後の対応を議論している、イギリスの提督に与えられた指示は、日本の沿岸を荒らすことなく、薩摩藩主が生麦事件の犯人を庇護する城を占拠することに限定されるべき

1863	9	14	<i>Gazette nationale ou le Moniteur universel</i>	p.1	外国の通信	横浜から長崎へ向かうアメリカの小型商業船を、南部の大名の一人であるラガト公 (Ragato) が攻撃した、ラガト公は、薩摩公とともに、大君政府および外国人に対して最も敵対的な姿勢を見せていた大名
1863	9	15	<i>Mémorial de la Loire et de la Haute-Loire</i>	p.2	日本	横浜から長崎へ向かうアメリカの小型商業船を、南部の大名の一人であるラガト公 (Ragato) が攻撃した、ラガト公は、薩摩公とともに、大君政府および外国人に対して最も敵対的な姿勢を見せていた大名
1863	9	15	<i>Le Constitutionnel</i>	p.1	-	横浜から長崎へ向かうアメリカの小型商業船を、南部の大名の一人であるラガト公 (Ragato) が攻撃した、ラガト公は、薩摩公とともに、大君政府および外国人に対して最も敵対的な姿勢を見せていた大名
1863	9	15	<i>Le Temps</i>	p.1	日本のニュース	横浜から長崎へ向かうアメリカの小型商業船を、南部の大名の一人であるラガト公 (Ragato) が攻撃した、ラガト公は、薩摩公とともに、大君政府および外国人に対して最も敵対的な姿勢を見せていた大名
1863	9	15	<i>La Patrie</i>	p.1	-	横浜から長崎へ向かうアメリカの小型商業船を、南部の大名の一人であるラガト公 (Ragato) が攻撃した、ラガト公は、薩摩公とともに、大君政府および外国人に対して最も敵対的な姿勢を見せていた大名
1863	9	15	<i>Le Siècle</i>	p.2	外国のニュース	横浜から長崎へ向かうアメリカの小型商業船を、南部の大名の一人であるラガト公 (Ragato) が攻撃した、ラガト公は、薩摩公とともに、大君政府および外国人に対して最も敵対的な姿勢を見せていた大名
1863	9	16	<i>La Gironde</i>	p.2	日本	横浜から長崎へ向かうアメリカの小型商業船を、南部の大名の一人であるラガト公 (Ragato) が攻撃した、ラガト公は、薩摩公とともに、大君政府および外国人に対して最も敵対的な姿勢を見せていた大名
1863	9	19	<i>Revue de l'Empire</i>	p.2	-	横浜から長崎へ向かうアメリカの小型商業船を、南部の大名の一人であるラガト公 (Ragato) が攻撃した、ラガト公は、薩摩公とともに、大君政府および外国人に対して最も敵対的な姿勢を見せていた大名
1863	9	21	<i>Gazette nationale ou le Moniteur universel</i>	p.1	外国のニュース、イギリス	インドの新聞によると、大名たちは独立を宣言しており、薩摩の君主は自分の島々を保持し、水戸の君主は日本の南部を支配しているとのこと
1863	9	27	<i>Courrier du dimanche</i>	p.2	外国からのニュース、日本	日本列島で革命が起こり、三人の君主が帝国の異なる地域で政府の指導権を握ったという。大君と水戸の君主と薩摩の君主で、薩摩の君主は日本で最も強力な君主の一人として独立を宣言したとされている。 薩摩の君主だけが、大君の絶対的な権力を天皇の代理に過ぎないものに数年前から努めていた。この目的のために薩摩藩の軍隊を欧州式に編成し、ヨーロッパやアメリカから必要な武器を手に入れていた。
1863	10	9	<i>La Patrie</i>	p.1	私的な電信	10月7日アレクサンドリアからイギリスの提督は横浜を離れ、日本の薩摩の君主を怒らしめることに掻き立てられたと我々は信じている
1863	10	16	<i>Gazette nationale ou le Moniteur universel</i>	p.1	外国の通信	8月14日の江戸からイギリスの艦隊が8月7日に薩摩国に向かって出発した。日本の政府はイギリスの軍に随行する蒸気船を鹿児島に派遣したが、これはおそらくイギリスと薩摩の君主の直接の合意を防ぐためでもある
1863	10	17	<i>Le Phare de la Loire</i>	p.1	-	8月14日の江戸からイギリスの艦隊が8月7日に薩摩国に向かって出発した。日本の政府はイギリスの軍に随行する蒸気船を鹿児島に派遣したが、これはおそらくイギリスと薩摩の君主の直接の合意を防ぐためでもある
1863	10	17	<i>Le Temps</i>	p.1	-	8月14日の江戸からイギリスの艦隊が8月7日に薩摩国に向かって出発した。日本の政府はイギリスの軍に随行する蒸気船を鹿児島に派遣したが、これはおそらくイギリスと薩摩の君主の直接の合意を防ぐためでもある
1863	10	17	<i>Journal du Cher</i>	p.1	外国からのニュース	イギリス艦隊は、日本で最も独立心の強い君主が治める薩摩国に向けて出発した
1863	10	17	<i>La Gironde</i>	p.1	私的な電信	イギリス艦隊は薩摩へ向かった
1863	10	17	<i>Journal des débats politiques et littéraires</i>	p.2	-	8月14日の江戸からイギリスの艦隊が8月7日に薩摩国に向かって出発した。日本の政府はイギリスの軍に随行する蒸気船を鹿児島に派遣したが、これはおそらくイギリスと薩摩の君主の直接の合意を防ぐためでもある
1863	10	17	<i>Le Constitutionnel</i>	p.2	-	8月14日の江戸からイギリスの艦隊が8月7日に薩摩国に向かって出発した。日本の政府はイギリスの軍に随行する蒸気船を鹿児島に派遣したが、これはおそらくイギリスと薩摩の君主の直接の合意を防ぐためでもある

1863	10	18	<i>La Gironde</i>	p.2	-	8月14日の江戸からイギリスの艦隊が8月7日に薩摩国に向かって出発した。日本の政府はイギリスの軍に随行する蒸気船を鹿児島に派遣したが、これはおそらくイギリスと薩摩の君主の直接の合意を防ぐためでもある
1863	10	18	<i>Journal des villes et des campagnes</i>	p.2	外国、日本	8月14日の江戸からイギリスの艦隊が8月7日に薩摩国に向かって出発した。日本の政府はイギリスの軍に随行する蒸気船を鹿児島に派遣したが、これはおそらくイギリスと薩摩の君主の直接の合意を防ぐためでもある
1863	10	19	<i>Le Phare de la Loire</i>	p.1	最新ニュース	イギリス艦隊はKangokiniaと薩摩の君主の蒸気船3隻を破壊した
1863	10	20	<i>La Gironde</i>	p.1	私的な電信	イギリス艦隊はKangokimaの町と薩摩の君主の蒸気船3隻を破壊した
1863	10	20	<i>Le Temps</i>	p.1	私的な電信	イギリス艦隊は外国人に敵意を持つことで知られる薩摩の君主が所有する蒸気船3隻と町を焼き払った。その後イギリス艦隊は横浜に帰還した
1863	10	20	<i>Le Phare de la Loire</i>	p.1	私的な電信	イギリス艦隊は外国人に敵意を持つことで知られる薩摩の君主が所有する蒸気船3隻と町を焼き払った。その後イギリス艦隊は横浜に帰還した
1863	10	20	<i>La Gazette de France</i>	p.1	-	イギリスの艦隊は鹿児島に砲撃し、破壊した。それから外国人に敵意を持つことで知られる薩摩の君主の蒸気船3隻が同時に破壊された、これらは精神的な報復である
1863	10	20	<i>La Patrie</i>	p.1	私的な電信	イギリス艦隊は外国人に敵意を持つことで知られる薩摩の君主が所有する蒸気船3隻と町を焼き払った。その後イギリス艦隊は横浜に帰還した
1863	10	20	<i>Journal des villes et des campagnes</i>	p.1	最新ニュース	イギリス艦隊は外国人に敵意を持つことで知られる薩摩の君主が所有する蒸気船3隻と町を焼き払った。その後イギリス艦隊は横浜に帰還した
1863	10	20	<i>Journal des débats politiques et littéraires</i>	p.1	私的な電信	イギリス艦隊は外国人に敵意を持つことで知られる薩摩の君主が所有する蒸気船3隻と町を焼き払った。その後イギリス艦隊は横浜に帰還した
1863	10	20	<i>La Presse</i>	p.1	外国、電信、日本	イギリス艦隊は外国人に敵意を持つことで知られる薩摩の君主が所有する蒸気船3隻と町を焼き払った。その後イギリス艦隊は横浜に帰還した
1863	10	20	<i>Le Sémaphore de Marseille</i>	p.2	最新ニュース、最新の電報	イギリス艦隊が鹿児島町の町と薩摩の君主の蒸気船を破壊した
1863	10	21	<i>Mémorial de la Loire et de la Haute-Loire</i>	p.1	電信、一般的なサービス	19日、アレクサンドリア 8月15日の日本からのニュース「薩摩の君主の蒸気船3、4隻が焼き払われた」「この最後の作戦でイギリス軍の損失は50名である」
1863	10	21	<i>Journal de la ville de Saint-Quentin et de l'arrondissement</i>	p.1	私的な電信	イギリス艦隊は外国人に敵意を持つことで知られる薩摩の君主が所有する蒸気船3隻と町を焼き払った。その後イギリス艦隊は横浜に帰還した
1863	10	21	<i>Le Nouvelliste de La Rochelle</i>	p.2	外国からのニュース	イギリス艦隊は外国人に敵意を持つことで知られる薩摩の君主が所有する蒸気船3隻と町を焼き払った。その後イギリス艦隊は横浜に帰還した
1863	10	21	<i>Le Siècle</i>	p.2	私的な電信	19日、アレクサンドリア 8月15日の日本からのニュース「薩摩の君主の蒸気船3、4隻が焼き払われた」「この最後の作戦でイギリス軍の損失は50名である」
1863	10	22	<i>Gazette nationale ou le Moniteur universel</i>	p.2	外国のニュース	薩英戦争の詳しい状況をアメリカとイギリスの新聞から引用している
1863	10	22	<i>La Gazette de France</i>	p.1	電信	10月19日のアレクサンドリアからの電信、鹿児島町の町は瓦礫の山、薩摩の君主の蒸気船は破壊されてしまった。イギリス側は戦死者11名、負傷39名で、日本の守備はかなり強かった
1863	10	22	<i>Le Temps</i>	p.1	私的な電信	10月21日の『メモワール・ド・ラ・ロワール・エ・ド・ラ・オート・ロワール』と同じ
1863	10	23	<i>La Gazette de France</i>	p.2	日本のニュース	生麦事件から薩英戦争が起こったことについて『モーニング・ポスト』から引用している
1863	10	23	<i>Le Constitutionnel</i>	p.1	-	薩英戦争に触れつつ、イギリスの新聞から、イギリスが日本との関係を慎重に進めるべきだという提言を引用している
1863	10	23	<i>Le Phare de la Loire</i>	p.2	外国からの通信	薩英戦争を経て日本に対して慎重な姿勢をとるべきという論説
1863	10	25	<i>Le Courrier de Bourges</i>	p.2	一般的な年代記	薩英戦争が完全な成功を収めたように見えない
1863	10	25	<i>Courrier du dimanche</i>	p.4	新聞の特別な通信、日本	1868年8月15日の神奈川からの通信、水戸と薩摩の君主たちが多数の軍隊で有力者 (pontife) の邸宅を守ることを申し出て、そしてまもなく日本内に分裂が生じた

1863	10	30	<i>Gazette nationale ou le Moniteur universel</i>	p.1	外国の通信	江戸からの通信によって薩英戦争の詳細を記載している
1863	10	31	<i>Journal des débats politiques et littéraires</i>	p.1	私的な電信	江戸からの通信によって薩英戦争の詳細を記載している
1863	10	31	<i>Le Temps</i>	p.2	日本のニュース	江戸からの通信によって薩英戦争の詳細を記載している
1863	10	31	<i>La Presse</i>	p.2	-	江戸からの通信によって薩英戦争の詳細を記載している
1863	10	31	<i>Le Constitutionnel</i>	p.2	-	江戸からの通信によって薩英戦争の詳細を記載している
1863	10	31	<i>La Gazette de France</i>	p.2	日本のニュース	江戸からの通信によって薩英戦争の詳細を記載している
1863	10	31	<i>Le Phare de la Loire</i>	p.1	-	江戸からの通信によって薩英戦争の詳細を記載している
1863	10	31	<i>Le Siècle</i>	p.2	外国からのニュース	江戸からの通信によって薩英戦争の詳細を記載している
1863	11	1	<i>Journal des débats politiques et littéraires</i>	p.2	外国のニュース	薩英戦争では薩摩に損害を与えたが鎮圧できたわけではない
1863	11	2	<i>Le Phare de la Loire</i>	p.2	外国からの通信	クーベルとニールからの鹿児島への攻撃に関する公式報告
1863	11	4	<i>Le Constitutionnel</i>	p.1	-	薩英戦争、鹿児島への町を破壊し罪のない住民を攻撃する必要があるのか、『イブニング・スター』と『スベクテーター』の批判的な内容を掲載している
1863	11	10	<i>La France</i>	p.1	ニュース	生麦事件後の賠償金請求から薩英戦争への経緯、イギリスの武力行使を批判的に記している
1863	11	11	<i>Mémorial de la Loire et de la Haute-Loire</i>	p.2	日本のニュース	生麦事件後の賠償金請求から薩英戦争への経緯、イギリスの武力行使を批判的に記している
1863	11	12	<i>Journal du Cher</i>	p.1	日本	生麦事件後の賠償金請求から薩英戦争への経緯、イギリスの武力行使を批判的に記している
1863	11	21	<i>Le Phare de la Loire</i>	p.1	私的な電信	長崎の武装集団、薩摩ほか大名たちは戦争の準備をしている
1863	11	21	<i>Mémorial de la Loire et de la Haute-Loire</i>	p.1	電信	長崎の武装集団、薩摩ほか大名たちは戦争の準備をしている
1863	11	21	<i>L'Opinion nationale</i>	p.1	一日のニュース	薩英戦争に引き続き、日本はイギリスに攻撃する準備をしている、日本には強力で恐るべき国民感情がある
1863	11	21	<i>Journal des débats politiques et littéraires</i>	p.1	私的な電信	長崎の武装集団、薩摩ほか大名たちは戦争の準備をしている
1863	11	21	<i>La Patrie</i>	p.1	私的な電信	長崎の武装集団、薩摩ほか大名たちは戦争の準備をしている
1863	11	21	<i>La France</i>	p.2	電信ニュース	長崎の武装集団、薩摩ほか大名たちは戦争の準備をしている
1863	11	21	<i>Le Temps</i>	p.3	最新のニュース	長崎の武装集団、薩摩ほか大名たちは戦争の準備をしている
1863	11	23	<i>Mémorial de la Loire et de la Haute-Loire</i>	p.2	電信	長崎の武装集団、薩摩藩主と大名たちは戦争の準備を進めているとされている
1863	11	24	<i>Courrier de Saône-et-Loire</i>	p.2	-	長崎の武装集団、薩摩藩主と大名たちは戦争の準備を進めているとされている
1863	11	25	<i>Journal des débats politiques et littéraires</i>	p.1	外国のニュース	イギリスのディール市の市長を讃える晩餐会でクラレンス・バジェット卿が鹿児島への攻撃は避けられなかった行動であったと述べる
1863	11	26	<i>Le Constitutionnel</i>	p.1	日本におけるイギリス	日本の開国頃からの外国との関わりについて述べるなかで、生麦事件から薩英戦争について触れている
1863	11	29	<i>Courrier du dimanche</i>	p.4	新聞の特別な通信、日本	幕府に対して対抗する薩摩藩と諸侯が聖都 (Ville-Sainte) で諸侯を集めて当時の出来事について話し合った
1863	12	1	<i>La Presse</i>	p.1	コブデンとブライトのスピーチ、ロッチデールにて	コブデン主義でイギリスの外国への対応の例のひとつとして薩英戦争を挙げている
1863	12	2	<i>Mémorial de la Loire et de la Haute-Loire</i>	p.3	雑記	日本の財政状況、大名の代表例として
1863	12	4	<i>Journal des débats politiques et littéraires</i>	p.1	私的な電信	日本の大君と大名の対立が続いていることに加えて、「薩摩藩主は、自分は敗北していないと宣言し、むしろイギリス人にかんがりの損害を与えたと主張している」
1863	12	4	<i>La Patrie</i>	p.1	私的な電信	日本の大君と大名の対立が続いていることに加えて、「薩摩藩主は、自分は敗北していないと宣言し、むしろイギリス人にかんがりの損害を与えたと主張している」
1863	12	4	<i>Le Phare de la Loire</i>	p.2	私的な電信	日本の大君と大名の対立が続いていることに加えて、「薩摩藩主は、自分は敗北していないと宣言し、むしろイギリス人にかんがりの損害を与えたと主張している」
1863	12	5	<i>Le Monde illustré</i>	p.6	鹿児島島の爆撃と火災	薩英戦争の詳細、住民が亡くなったことに関してはイギリスの艦隊の行動を批判的に書いている
1863	12	5	<i>Le Temps</i>	p.1	私的な電信	日本の大君と大名の対立が続いていることに加えて、「薩摩藩主は、自分は敗北していないと宣言し、むしろイギリス人にかんがりの損害を与えたと主張している」
1863	12	5	<i>La Presse</i>	p.1	外国、電信	日本の大君と大名の対立が続いていることに加えて、「薩摩藩主は、自分は敗北していないと宣言し、むしろイギリス人にかんがりの損害を与えたと主張している」
1863	12	19	<i>Le Temps</i>	p.2	-	日本でフランス人が殺害される事件が起きたことで、生麦事件にも触れている

1863	12	30	<i>Journal des débats politiques et littéraires</i>	p.1	-	『タイムズ』の抜粋、薩摩の財政は豊かで、加えて良い家臣をもった社会的地位のある藩であること
1863	12	31	<i>Le Temps</i>	p.1	私的な電信	薩摩の君主と大君が合意した、両者とも外国人の追放を求めているが、薩摩の君主の方が強制的な措置を望んでいる
1863	12	31	<i>Le Phare de la Loire</i>	p.1	私的な電信	薩摩の君主と大君が合意した、両者とも外国人の追放を求めているが、薩摩の君主の方が強制的な措置を望んでいる
1863	12	31	<i>Journal des débats politiques et littéraires</i>	p.1	私的な電信	薩摩の君主と大君が合意した、両者とも外国人の追放を求めているが、薩摩の君主の方が強制的な措置を望んでいる
1863	12	31	<i>La Patrie</i>	p.1	私的な電信	薩摩の君主と大君が合意した、両者とも外国人の追放を求めているが、薩摩の君主の方が強制的な措置を望んでいる
1863	12	31	<i>La Presse</i>	p.1	電信、日本	薩摩の君主と大君が合意した、両者とも外国人の追放を求めているが、薩摩の君主の方が強制的な措置を望んでいる
1864	1	1	<i>Journal de la ville de Saint-Quentin et de l'arrondissement</i>	p.1	政治ニュース	薩摩の君主と大君が合意した、両者とも外国人の追放を求めているが、薩摩の君主の方が強制的な措置を望んでいる
1864	1	1	<i>La Gironde</i>	p.1	私的な電信	薩摩の君主と大君が合意した、両者とも外国人の追放を求めているが、薩摩の君主の方が強制的な措置を望んでいる
1864	1	1	<i>L'Opinion nationale</i>	p.1	一日のニュース	イギリスの新聞によれば、霊的な天皇、世俗的な君主、そして薩摩の君主が、日本から外国人を追放することで最終的に合意に達したと報じている
1864	1	2	<i>La Gazette de France</i>	p.2	電信	薩英戦争後、薩摩は賠償金を支払う予定だ
1864	1	2	<i>Le Phare de la Loire</i>	p.2	私的な電信	薩英戦争後、薩摩は賠償金を支払う予定だ
1864	1	2	<i>La Presse</i>	p.3	最新のニュース	薩英戦争後、薩摩は賠償金を支払う予定だ
1864	1	2	<i>Le Constitutionnel</i>	p.1	私的な電信	薩英戦争後、薩摩は賠償金を支払う予定だ
1864	1	2	<i>Le Temps</i>	p.1	私的な電信	薩英戦争後、薩摩は賠償金を支払う予定だ
1864	1	3	<i>Le Phare de la Loire</i>	p.2	私的な電信	薩英戦争後、薩摩は賠償金を支払う予定だ
1864	1	8	<i>Le Sémaphore de Marseille</i>	p.2	寄せ集めのニュース	薩摩の君主は外国人に対して武力行使と即時追放を要求している
1864	1	8	<i>Le Temps</i>	p.2	中国と日本のニュース	特派員による記事で、最近の日本の情報を正す目的で書いている、薩摩の君主は独立心はあるものの大君に従っている
1864	1	9	<i>Le Constitutionnel</i>	p.1	-	英国の新聞によれば、薩摩は改心し、リチャードソンのために墓碑を建てる計画を立てたとされている
1864	1	9	<i>Revue de l'Empire</i>	p.3	外国からのニュース	薩摩の君主はイギリスに対してリチャードソン殺害の賠償金の支払いと記念碑を建てることを提案している
1864	1	12	<i>La Gazette de France</i>	p.1	電信	薩英戦争後、薩摩は賠償金を支払いリチャードソン殺害の犯人を捜すことを約束
1864	1	12	<i>Le Siècle</i>	p.1	私的な電信	薩英戦争後、薩摩は賠償金を支払いリチャードソン殺害の犯人を捜すことを約束
1864	1	12	<i>Journal des débats politiques et littéraires</i>	p.1	私的な電信	薩英戦争後、薩摩は賠償金を支払いリチャードソン殺害の犯人を捜すことを約束
1864	1	12	<i>La Presse</i>	p.1	電信	薩英戦争後、薩摩は賠償金を支払いリチャードソン殺害の犯人を捜すことを約束
1864	1	12	<i>Le Constitutionnel</i>	p.1	私的な電信	薩英戦争後、薩摩は賠償金を支払いリチャードソン殺害の犯人を捜すことを約束
1864	1	12	<i>Journal du Cher</i>	p.2	コーチナからのニュース	英国の新聞によれば、サツマは改心し、リチャードソンのために墓碑を建てる計画を立てたとされている
1864	1	12	<i>Le Temps</i>	p.1	私的な電信	薩英戦争後、薩摩は賠償金を支払いリチャードソン殺害の犯人を捜すことを約束
1864	1	24	<i>Mémorial de la Loire et de la Haute-Loire</i>	p.1	電信	薩摩は外国人が横濱から立ち退くまで賠償金の支払いを拒否していて、イギリスは援軍を待っている
1864	1	24	<i>L'Opinion nationale</i>	p.1	私的な電信	薩摩は外国人が横濱から立ち退くまで賠償金の支払いを拒否していて、イギリスは援軍を待っている
1864	1	24	<i>Le Constitutionnel</i>	p.1	私的な電信	薩摩は外国人が横濱から立ち退くまで賠償金の支払いを拒否していて、イギリスは援軍を待っている
1864	1	24	<i>Le Phare de la Loire</i>	p.1	私的な電信	薩摩は外国人が横濱から立ち退くまで賠償金の支払いを拒否していて、イギリスは援軍を待っている
1864	1	25	<i>Le Temps</i>	p.1	私的な電信	薩摩は外国人が横濱から立ち退くまで賠償金の支払いを拒否していて、イギリスは援軍を待っている
1864	2	5	<i>L'Aube (Troyes)</i>	p.1	王立委員によって代読された、英国議会開会時の王室演説	薩摩は要求を拒否して強制的な措置をとることになったが、鹿児島の方が破壊されたことを陛下は遺憾に思っている（イギリス）
1864	2	5	<i>Le Phare de la Loire</i>	p.1	一日のニュース	薩摩は要求を拒否して強制的な措置をとることになったが、鹿児島の方が破壊されたことを陛下は遺憾に思っている（イギリス）

1864	2	5	<i>Journal des débats politiques et littéraires</i>	p.1	私的な電信	薩摩は要求を拒否して強制的な措置をとることになったが、鹿児島市の町が破壊されたことを陛下は遺憾に思っている (イギリス)
1864	2	5	<i>Le Siècle</i>	p.1	イギリス議会	薩摩は要求を拒否して強制的な措置をとることになったが、鹿児島市の町が破壊されたことを陛下は遺憾に思っている (イギリス)
1864	2	5	<i>Le Temps</i>	p.3	最新のニュース	薩摩は要求を拒否して強制的な措置をとることになったが、鹿児島市の町が破壊されたことを陛下は遺憾に思っている (イギリス)
1864	2	5	<i>Le Constitutionnel</i>	p.2	王立委員によって代読された、英国議会開会時の王室演説	薩摩は要求を拒否して強制的な措置をとることになったが、鹿児島市の町が破壊されたことを陛下は遺憾に思っている (イギリス)
1864	2	6	<i>La Gironde</i>	p.1	英国議会の開会	薩摩は要求を拒否して強制的な措置をとることになったが、鹿児島市の町が破壊されたことを陛下は遺憾に思っている (イギリス)
1864	2	7	<i>Gazette nationale ou le Moniteur universel</i>	p.2	外国のニュース	英国議会での薩英戦争の損害についての報告
1864	2	7	<i>L'Esprit public</i>	p.2	王室のスピーチ	薩摩は要求を拒否して強制的な措置をとることになったが、鹿児島市の町が破壊されたことを陛下は遺憾に思っている (イギリス)
1864	2	9	<i>Le Constitutionnel</i>	p.1	私的な電信	薩摩が賠償金を支払った
1864	2	9	<i>Le Siècle</i>	p.1	私的な電信	薩摩が賠償金を支払った
1864	2	10	<i>Gazette nationale ou le Moniteur universel</i>	p.1	ニュース	薩摩が賠償金を支払った
1864	2	10	<i>Le Temps</i>	p.1	私的な電信	薩摩が賠償金を支払った
1864	2	11	<i>La Gironde</i>	p.1	私的な電信	薩摩が賠償金を支払った
1864	2	12	<i>Gazette nationale ou le Moniteur universel</i>	p.1	外国の通信／外国のニュース	2月9日のロンドンから、鹿児島市の町が破壊されたことを陛下の政府は遺憾に思っている (イギリス)／英国議会での薩英戦争に関する議論
1864	2	13	<i>Revue de l'Empire</i>	p.3	外国からのニュース	薩摩が賠償金を支払った
1864	2	13	<i>Gazette nationale ou le Moniteur universel</i>	p.1	ニュース	薩摩の君主が賠償金を支払ったことによってヨーロッパと日本の深刻な問題が終わった
1864	2	14	<i>Le Temps</i>	p.1	-	薩摩の君主が賠償金を支払ったことによってヨーロッパと日本の深刻な問題が終わった
1864	2	14	<i>La Patrie</i>	p.2	-	薩摩の君主が賠償金を支払ったことによってヨーロッパと日本の深刻な問題が終わった
1864	2	14	<i>Le Constitutionnel</i>	p.2	-	薩摩の君主が賠償金を支払ったことによってヨーロッパと日本の深刻な問題が終わった
1864	2	14	<i>Journal des débats politiques et littéraires</i>	p.1	-	薩摩の君主が賠償金を支払ったことによってヨーロッパと日本の深刻な問題が終わった
1864	2	15	<i>Mémoires de la Loire et de la Haute-Loire</i>	p.2	-	薩摩の君主が賠償金を支払ったことによってヨーロッパと日本の深刻な問題が終わった
1864	2	17	<i>L'Esprit public</i>	p.2	-	薩摩の君主が賠償金を支払ったことによってヨーロッパと日本の深刻な問題が終わった
1864	3	30	<i>Le Sémaphore de Marseille</i>	p.2	日本のニュース	日本の政治体質、下関戦争、攘夷思想を持つ薩摩がつよい
1864	4	3	<i>Le Temps</i>	p.2	日本のニュース	日本は嵐の前の静けさ、大名は結束を固めている、薩摩の君主はその二番手である
1864	5	15	<i>Gazette nationale ou le Moniteur universel</i>	p.1	外国の通信	キウシン (Kiu-sin) の君主は薩摩に敵対している
1864	6	23	<i>La Gironde</i>	p.2	外国からのニュース	外国に対する商売をする薩摩の新しい動きに驚く
1864	7	4	<i>Gazette nationale ou le Moniteur universel</i>	p.2	外国のニュース	ラッセル伯爵は、生麦事件後薩摩の君主に賠償を要求したことは戦争を防げる可能性があった行為だと、オールコックの行為を擁護した (イギリス)
1864	7	5	<i>Journal des débats politiques et littéraires</i>	p.2	外国のニュース	ラッセル伯爵は、生麦事件後薩摩の君主に賠償を要求したことは戦争を防げる可能性があった行為だと、オールコックの行為を擁護した (イギリス)
1864	7	28	<i>Le Phare de la Loire</i>	p.2	外国からの通信	下関海峡にヨーロッパの船を通さない長州に対する大君と薩摩の君主の動き
1864	8	30	<i>Le Phare de la Loire</i>	p.2	外国からの通信	薩摩は攘夷派から離れた
1864	10	3	<i>Le Temps</i>	p.2	日本のニュース	ヨーロッパ側の視点で「我々はそれほど危険を冒さずに、薩摩の君主の独立の考えを再び呼び覚ますつもりである」、「この計画を騒がせれば必ず望ましい結果が得られるでしょう」
1864	10	28	<i>Gazette nationale ou le Moniteur universel</i>	p.2	外国のニュース	薩摩は外国人から日本を守る、日本の慰めの存在である
1864	10	29	<i>La Gazette de France</i>	p.2	日本	下関事件の緊張状態、封建領主の例として薩摩の君主を挙げる
1864	12	5	<i>Gazette nationale ou le Moniteur universel</i>	p.2	外国のニュース	英国首相官邸での閣議、鹿児島への攻撃は肯定したい、薩摩の君主はイギリスと日本の友好関係、貿易を拡大したいと言っている

1864	12	6	<i>Moniteur des arts</i>	p.3	オークションのレビュー	11月29日にオテル・ドルーオで開催されたオークションの報告、薩摩焼が出品されている、98番の薩摩焼のボウルの落札額は705フラン
1865	1	8	<i>Le Constitutionnel</i>	p.2	証券取引所の年代記	1月6日ロンドンより、1864年日本では、薩摩の君主がイギリスとフランスの提督の条件に従う
1865	5	25	<i>La Patrie</i>	p.1	日本の事情	日本についての紹介文のなかで有力な大名として薩摩の君主も挙げている
1865	7	22	<i>Manuel général de l'instruction primaire</i>	p.3	政治と行政	薩摩の君主は昨年、4万本の桑の木を植えさせました、これは外国との交易を視野に入れていることを示している
1865	7	24	<i>La Presse</i>	p.3	一日のニュース	薩摩の君主は昨年、4万本の桑の木を植えさせました、これは外国との交易を視野に入れていることを示している
1865	8	31	<i>L'Époque</i>	p.2	外国からのニュース	日本の政体における対外政策、薩摩は最も攘夷派だと思われる
1865	9	26	<i>La Patrie</i>	p.2	-	幕府が長州藩と薩摩藩に対して戦争をしようとしている
1865	9	27	<i>La Patrie</i>	p.1	私的な電信	幕府が長州藩と薩摩藩に対して戦争をしようとしている
1865	10	16	<i>La Patrie</i>	p.1	-	大君の軍隊と長州藩と薩摩藩との間の敵対行為はまだ始まっていない
1866	3	23	<i>Le Courier de Bourges</i>	p.2	一般的な年代記	最も裕福な薩摩の君主が購入した蒸気戦艦「サラ」「ユニオン」「ジェラルド」「キンリン」、キンリンは中国沿岸の海賊と戦う
1866	3	24	<i>Le Siècle</i>	p.2	様々なニュース	最も裕福な薩摩の君主が購入した蒸気戦艦「サラ」「ユニオン」「ジェラルド」「キンリン」、キンリンは中国沿岸の海賊と戦う
1866	3	25	<i>Journal des débats politiques et littéraires</i>	p.2	様々な出来事	最も裕福な薩摩の君主が購入した蒸気戦艦「サラ」「ユニオン」「ジェラルド」「キンリン」、キンリンは中国沿岸の海賊と戦う
1866	4	25	<i>L'Avenir national</i>	p.1	-	電信、薩摩の君主と大君の間に確執が生じたことの知らせ
1866	4	25	<i>Le Constitutionnel</i>	p.1	私的な電信	薩摩の君主と大君の間に確執が生じたことの知らせ
1866	5	12	<i>Mémorial de la Loire et de la Haute-Loire</i>	p.1	電信	兵庫の港の開港を拒否する薩摩は大君と決別する可能性がある
1866	5	12	<i>Le Siècle</i>	p.1	私的な電信	兵庫の港の開港を拒否する薩摩は大君と決別する可能性がある
1866	5	12	<i>Journal des débats politiques et littéraires</i>	p.1	私的な電信	兵庫の港の開港を拒否する薩摩は大君と決別する可能性がある
1866	5	12	<i>Le Constitutionnel</i>	p.1	私的な電信	兵庫の港の開港を拒否する薩摩は大君と決別する可能性がある
1866	5	12	<i>Le Temps</i>	p.1	私的な電信	兵庫の港の開港を拒否する薩摩は大君と決別する可能性がある
1866	5	13	<i>La Gironde</i>	p.1	電信ニュース	兵庫の港の開港を拒否する薩摩は大君と決別する可能性がある
1866	5	18	<i>La Patrie</i>	p.1	-	薩摩は兵庫の開港に反対している
1866	9	26	<i>Gazette nationale ou le Moniteur universel</i>	p.1	外国のニュース	函館に商業活動のための蒸気船が到着した、それは英国製の「キンリン」で薩摩の君主が購入したもの
1866	9	28	<i>Le Phare de la Loire</i>	p.2	-	函館に商業活動のための蒸気船が到着した、それは英国製の「キンリン」で薩摩の君主が購入したもの
1866	9	30	<i>Le Courier de Bourges</i>	p.2	一般的な年代記	函館に商業活動のための蒸気船が到着した、それは英国製の「キンリン」で薩摩の君主が購入したもの
1866	10	3	<i>L'Avenir national</i>	p.2	外国	函館に商業活動のための蒸気船が到着した、それは英国製の「キンリン」で薩摩の君主が購入したもの
1866	10	5	<i>La Patrie</i>	p.1	-	パリ万国博覧会に出品される製品が首都に到着し始めていて、次の12月にフランスへ向けて出発する、収入が500万以上に達する富を持つ薩摩の君主は、「ヒオゴ」という見事な蒸気船を4年間にわたる世界一周航海のために強化している
1866	12	30	<i>Le Sémaphore de Marseille</i>	p.3	海のニュース	11月15日の上海に「薩摩の君主」号が停泊していた
1866	12	31	<i>Le Phare de la Loire</i>	p.3	海のニュース	荷降ろし中または目的地が決定していない船として上海に「薩摩の君主」がある
1867	1	14	<i>Le Phare de la Loire</i>	p.3	海のニュース	長崎に向かう「薩摩の君主」号が上海にある
1867	1	14	<i>La Gironde</i>	p.3	海上のニュース	長崎に向かう「薩摩の君主」号が上海にある
1867	2	1	<i>Gazette nationale ou le Moniteur universel</i>	p.1	外国のニュース	日本は既にパリ万博のために多くの製品をパリに向けて送り出している、薩摩の君主の末弟と14人の若者がフランスへ向かった
1867	2	2	<i>Le Phare de la Loire</i>	p.4	海のニュース	11月24日、「薩摩の君主」号が上海から出発して長崎へ向かった
1867	2	3	<i>Le Phare de la Loire</i>	p.2	-	日本は既にパリ万博のために多くの製品をパリに向けて送り出している、薩摩の君主の末弟と14人の若者がフランスへ向かった

1867	2	3	<i>Journal des débats politiques et littéraires</i>	p.2	様々な出来事	日本は既にパリ万博のために多くの製品をパリに向けて送り出している、薩摩の君主の末弟と14人の若者がフランスへ向かった
1867	3	3	<i>Journal des débats politiques et littéraires</i>	p.2	ジュルナル・デ・デバの連載	日本語を知っている方には万博では薩摩の君主から派遣された委員会をおすすめする、薩摩の君主は日本のなかでも偉大な家臣、そして自領の製品を家臣たちに護衛させている
1867	3	18	<i>Le Phare de la Loire</i>	p.4	海のニュース	1月24日、「薩摩の君主」号が上海から出発して函館へ向かった
1867	3	30	<i>Journal des débats politiques et littéraires</i>	p.2	様々な出来事	琉球の王である薩摩の君主の使節団がパリに到着した
1867	4	19	<i>Moniteur des arts</i>	p.2	ピコ・ド・L…氏のコレクション	オークションの宣伝のための記事、「オークションのカタログの番号47-70までに記載されている陶磁器は特に薩摩の作品」
1867	4	26	<i>La Liberté</i>	p.2	万国博覧会	4月21日に行われた協議によって日本の展示と琉球の展示は「大君政府」と「薩摩太守政府」に名前を変えた
1867	5	21	<i>Moniteur des arts</i>	p.4	美術の知らせ	中国・日本の美術品のオークションの広告、薩摩焼が出品される
1867	5	31	<i>Le Phare de la Loire</i>	p.4	商業と海上のニュース	「薩摩の君主」号が3月5日に上海から長崎に到着し、18日に再び上海に向けて出発する
1867	6	1	<i>L'Avenir national</i>	p.3	万国博覧会 民族衣装	「日本から、鱗のように覆われた鎧を纏った2つの怪物が送られてきた、それは薩摩太守政府の騎兵と歩兵である」
1867	7	6	<i>Le Phare de la Loire</i>	p.4	海のニュース	4月21日、中国の煙台 (Cheefoo) から営口 (Newchwang) に向けて「薩摩の君主」号が発出した
1867	7	7	<i>La Gironde</i>	p.3	海上のニュース	4月21日、中国の煙台 (Cheefoo) から営口 (Newchwang) に向けて「薩摩の君主」号が発出した
1867	7	25	<i>La Gironde</i>	p.4	海上のニュース	営口 (Newchwang) へ「薩摩の君主」号が煙台 (Cheefoo) から向かっている
1867	7	26	<i>Le Phare de la Loire</i>	p.4	海のニュース	5月22日、「薩摩の君主」号が営口 (Newchwang) からスタトゥ (Stratow、汕頭か?) に到着した
1867	7	30	<i>Le Phare de la Loire</i>	p.4	港の出入り	淡水 (Tamsui) 行き、汕頭 (Swatow) にある「薩摩の君主」号
1867	8	16	<i>La Gironde</i>	p.4	海上のニュース	淡水 (Tamsui) 行き「薩摩の君主」号 (汕頭と淡水間)
1867	8	16	<i>Le Phare de la Loire</i>	p.4	海のニュース	淡水 (Tamsui) 行き「薩摩の君主」号 (汕頭と淡水間)
1867	8	26	<i>Le Phare de la Loire</i>	p.2	パリからの通信	パリで、日本の大名である薩摩藩主の所有する地域を産業的および商業的に開発することを目的とした事業が計画されているといわれている
1867	8	28	<i>L'Opinion nationale</i>	p.2	-	薩摩の太守は西洋諸国への共感を示した最初の日本の君主である、彼と直接取引すれば極東のこの地域からの原材料や加工品が非常に有利な条件でフランスへ提供されるはず
1867	9	13	<i>Le Phare de la Loire</i>	p.3	海のニュース	7月22日、上海、「薩摩の君主」号に、長崎に向けて煙台 (Cheefoo) で荷物が積み込まれた
1867	9	14	<i>La Gironde</i>	p.3	海上のニュース	7月14日、「薩摩の君主」号が煙台 (Cheefoo) に向けて上海を出発した
1867	10	2	<i>Le Phare de la Loire</i>	p.4	海のニュース	「薩摩の君主」号は煙台 (Cheefoo) と長崎に向かっている (上海と煙台間)
1867	10	15	<i>Le Phare de la Loire</i>	p.3	海のニュース	8月24日、煙台 (Cheefoo)、「薩摩の君主」号は号は7月30日に長崎へ向けて出航した

表2 1867年パリ万国博覧会期間までのオークションのカタログにおける薩摩焼

開催日	開催場所	カタログ名	番号	説明
1864年11月29日	オテル・ドルーオ 5号室	中国と日本からの美術品や 珍品の美しいコレクション のカタログ Catalogue d'une belle réunion d'objets d'art et de curiosité de la Chine et du Japon	98	内側と外側に人物、風景、花、赤と金で強調された、 釉薬の装飾で飾られたとてもきれいなボウル。珍し い一品。彫刻された木製の台座。直径、22センチ メートル。
			99	丸彫りで製作され、岩の上に座る人物。わざとらしく ない装飾が施されており、衣服には複数の色の釉薬 の装飾で飾られている。高さ、23センチメートル。
			100	4つの突出部を備えたバラスター型の壺で、風景の中 の人物や釉薬の装飾で飾られている。高さ、33セン チメートル。
			101	人物や山岳風景が描かれた、膨らんだ部分がぎり ぎりまで下げられた瓶。彫刻された木製の台座。高 さ、25センチメートル。
1866年1月8日	オテル・ドルーオ 1号室	中国と日本からの美術品や 珍品を集めた素敵なコレク ションのカタログ Catalogue d'une jolie réunion d'objets d'art et de curiosité de la Chine et du Japon	33	薩摩焼のティーポット（急須）とその保温器。花や複 数の色の釉薬の装飾で飾られ、地は白で、金で際立 たせている。
1866年2月16日、 2月17日	オテル・ドルーオ 5号室	中国と日本の古い陶磁器の 非常に美しいコレクション のカタログ Catalogue d'une très-belle collection d'anciennes porcelaines de la Chine et du Japon	55	マンドリンを演奏する座った女性のきれいな小像。 薩摩焼で、金や複数の色で非常に繊細に装飾されて いる。
1867年2月6日、 2月7日	オテル・ドルーオ 5号室	G***氏のコレクションより、 中国と日本の陶磁器のカ タログ Catalogue des porcelaines de la Chine et du Japon composant la collection de M. G***	7	高さが通常より低く、開口部が広い薩摩焼の壺。複 数の色の釉薬をかけたバラ形の装飾と松の枝で飾ら れ、金で強調されている。高さ、15センチメートル。
			76	しゃがんだ孔雀の形をした美しい箱で、尾が扇のよ うに広がっており、薩摩焼で作られ、非常に鮮やかな 色で釉薬が施され、地は淡黄色で、金で強調されて いる。蓋はヨーロッパ製の彫金され金メッキされた 青銅でできています。高さ、22センチメートル。
			86	荷物を背負ってしゃがんだ人物で構成された薩摩焼 の小物入れ。非常に鮮やかな色の釉薬で装飾され、 地は斑点模様のある淡黄色。高さ、13センチメー トル。幅、20センチメートル。
			96	ドンダリ形の飾りがついた、袋の形をした薩摩焼の 小さな壺。地は淡黄色で、鮮やかな複数の色の釉薬 で装飾されている。高さ、11センチメートル。
1867年2月9日	オテル・ドルーオ 2号室	中国と日本の品々のカタログ Catalogue d'objets de la Chine et du Japon	66	薩摩の磁器のボウル、銅の赤色で装飾されている、 空想的な人物と動物の風景、金で強調されている。
1867年2月16日	オテル・ドルーオ 5号室	中国と日本の美しい品々の コレクションのカタログ Catalogue d'une réunion de beaux objets de la Chine et du Japon	98	薩摩の磁器のボウル、中国の人物と、銅の赤と金のロ ザンジュ (lozanges, losenge 菱形模様のことか) と 中国の人物で美しく装飾されている。
1867年2月23日	オテル・ドルーオ 3号室	中国と日本の美しい品々の コレクションのカタログ Catalogue d'une réunion de beaux objets de la Chine et du Japon	62	大きく美しい薩摩（日本）の磁器のボウル、人物や空 想的な花や動物の14の円形モチーフを描く、銅の赤 や金で非常に美しく装飾されている、美しい作品。
			65	薩摩の磁器のくぼんだ平皿、装飾帯 (frises) と人物 が銅の赤で美しく装飾され、金で強調されている。

1867年4月23日	オテル・ドルーオ 4号室	ピコ・ド・L…氏のコレクション、中国と日本の品々のカタログ Collection de M. Picot de L... Catalogue d'objets de la Chine et du Japon	47	大きなボウル。中央は、賢人たちの集まりを描いた釉薬によって飾られている。
			48	茶を温める器、乳白色の地に、銅の赤の帯装飾 (frises) と、釉薬による円形装飾が施されている。
			49	48と同様のもの。
			50	六面の花瓶、金で強調されており、浮き彫りで緑色の葉脈のような装飾が施されている。
			51	釉薬をかけた陶器のティーポット (急須)、釉薬によって、日本の文字が描かれた青い円形装飾が施されている。
			52	古い薩摩焼で、緑が曲線を描いた杯、花と格子模様の円形装飾で美しく装飾されている。
			53	青銅の青緑を模した釉薬をかけた陶器の瓶。
			54	蓋付きの壺、ラク・ブルゴーテ (laque burgauté, 螺鈿) を模した釉薬を施した陶器。
			55	黒い漆を模した蓋がついた壺で、金で強調されている。
			56	55と同じ装飾の瓶、細長い形状。
			57	黒い漆を模した取手付きの小さなバター皿。
			58	口が広がった花瓶、箕のように編まれたような模様の地、灰色の釉薬。
			59	浮き彫りで空想のようなモチーフが施された、型押し模様のある釉薬をかけた陶器の小さな壺。
			60	59と同じもの、59よりも小さい。
			61	釉薬による花束で装飾された、型押し模様のある陶器のティーポット (急須)。
			62	ボカロ (赤みを帯びた土、 boucaroか) のティーポット (急須)、箕のように編まれたような模様の陶器の地、緑と青の釉薬で装飾されている。
			64	青い装飾が施されたジャム瓶と透かしのあるスタンド。
			65	釉薬が施された花瓶、波間で暴れる龍の浮き彫りで囲まれている。
			66	岩に留まる鳥、青銅を模した釉薬。
			67	留まっている猛禽、66と同様のもの。
1867年5月3日	オテル・ドルーオ 5号室	中国と日本の非常に美しい品々のコレクションのカタログ Catalogue d'une collection de très-beaux objets de la Chine et du Japon	83	銅の赤で描かれた人物で美しく装飾された、大きな薩摩焼の杯、金で強調されている。
			87	日本の人物と花束が釉薬で描かれた、大きな薩摩焼のボウル。
			91	薩摩焼の大きなボウル、内側には緑の背景に風景とキクの花が描かれた装飾帯 (frise) の、釉薬による美しい装飾が施されている。
			94	薩摩の磁器の小さな杯2つ、釉薬がかけられ、人物や花で装飾されている。
1867年5月25日	オテル・ドルーオ 5号室	中国と日本からの品物の素敵なコレクションのカタログ Catalogue d'une jolie réunion d'objets de la Chine et du Japon	86	金地に釉薬が施されたきれいな薩摩焼のティーポット (急須)。
			87	マッチを入れる薩摩焼の小さな壺。非常に細かく色上絵の具で装飾され、金で強調されている。

